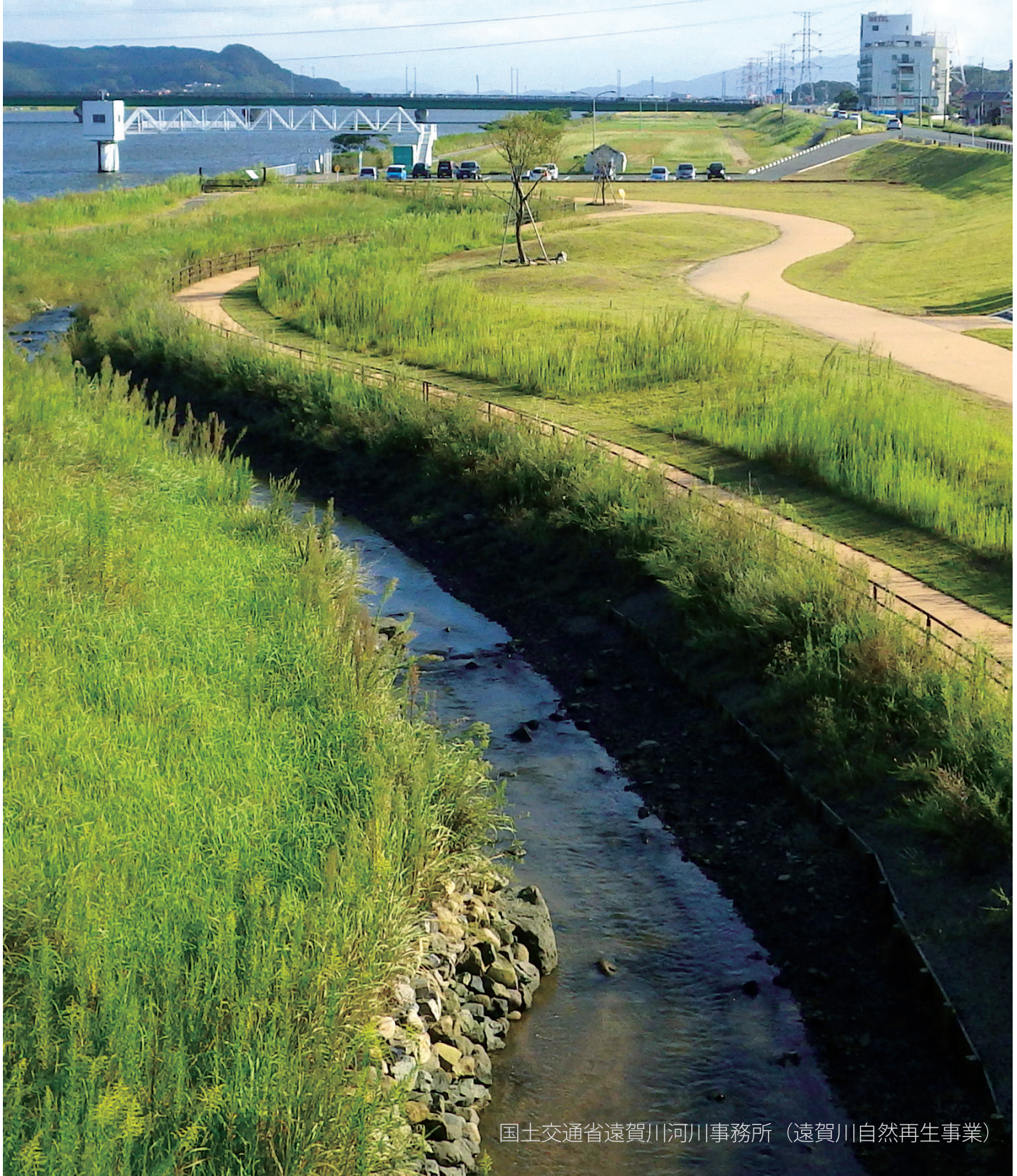


生きものと人をつなぐ ゆるやかな水辺空間の再生

# 遠賀川魚道公園



# 2008



## 生きもの与人をつなぐ

魚道公園ができる前の環境 (- 2007)



河口堰魚道改良事業 (2008 -)



改修前の河口堰周辺

遠賀川は福岡県北部を流れる一級河川です。遠賀川の河口には、水量を調節するための堰が設けられています。

既設魚道は、海と川をつなぐ唯一の場所ですが、遊泳力の弱い魚が遡上できない問題がありました。

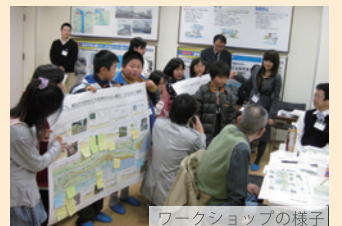
また、河口堰周辺の河川敷はコンクリートで覆われており、地域の人々や、生き物にとって快適な空間ではありませんでした。



既設魚道

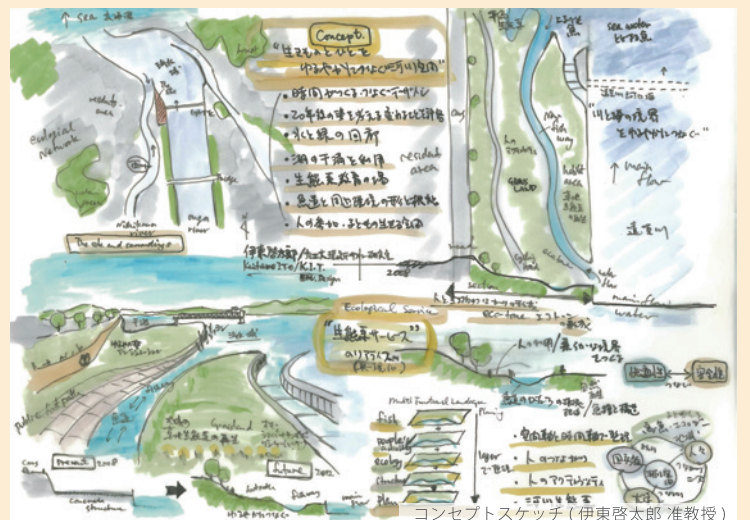
河口堰魚道を含めた周辺環境を改善するため、2008年より河口堰魚道改良事業が始まりました。

この事業では、行政、大学、建設コンサルタントが協働で、住民の方々とワークショップや懇談会を行いながら進めました。



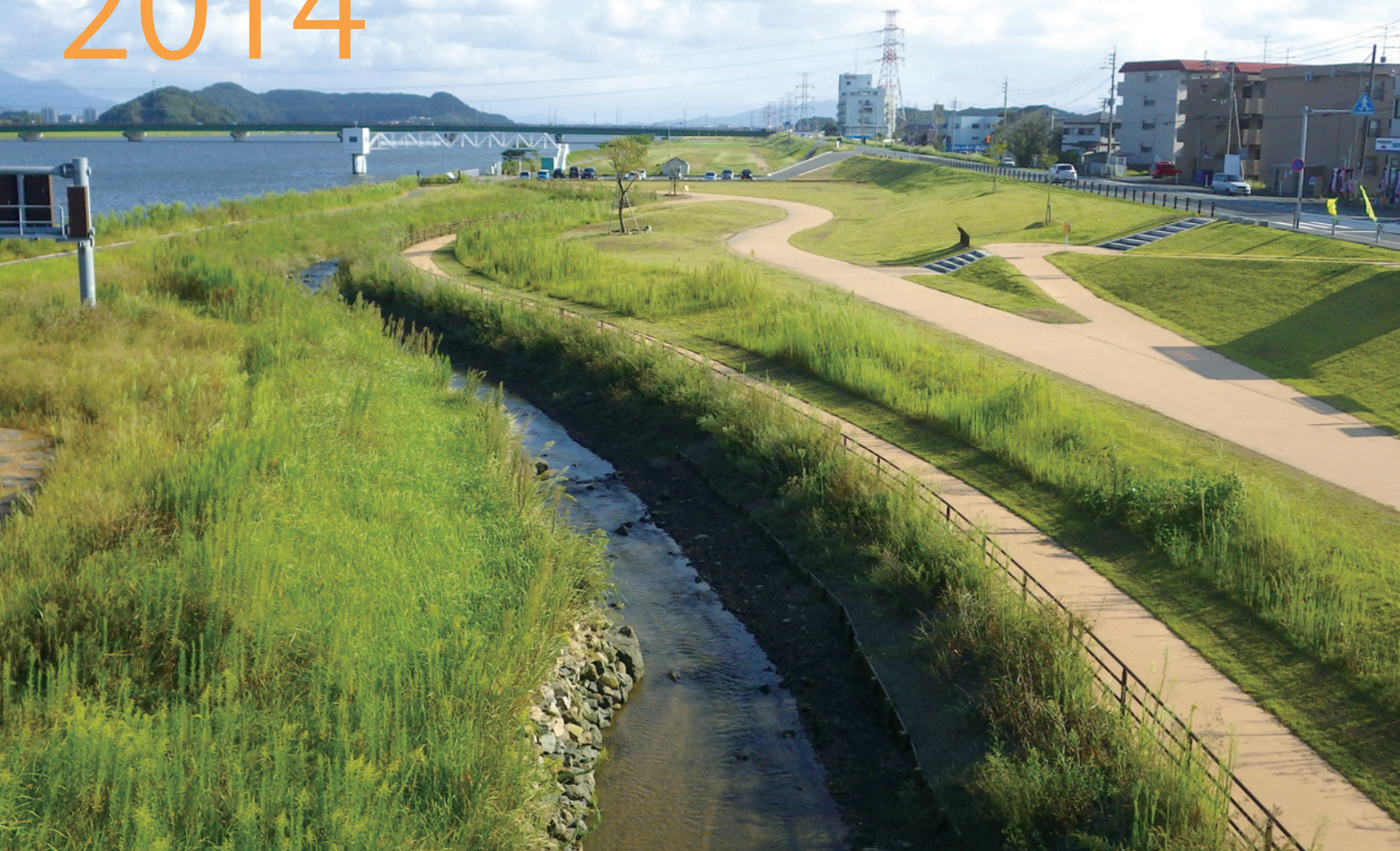
ワークショップの様子

設計のコンセプトを「生きもの与人をつなぐゆるやかな水辺空間の再生」とし、今後も絶えず変化し続ける水と緑の回廊として、生き物と人をつなぐゆるやかな水の道を目指しました。



コンセプトスケッチ (伊東啓太郎 准教授)

# 2014



## ゆるやかな水辺空間の再生

### 魚道公園完成 (2013)

2013年6月、魚道公園は完成しました。コンクリートで覆われていた単調な空間から、水辺や草地、干潟など多様な環境がある公園へと生まれ変わりました。



それまで堰によって淡水と海水に分断されていた河口に汽水域がつけられました。

緩やかな勾配を持つ魚道が新設されたことで、遊泳力の弱い小型の魚やカニなどの甲殻類が遡上できるようになりました。河川敷には草地が復元され、生き物が生息できる空間や人々が憩える空間となっています。

魚道公園完成後は、このような環境を用いて、生き物調査などの環境学習やバードウォッチング、サケの稚魚の放流の場としても活用されています。



### 今後の魚道公園 (2013 -)

今後、地域と共に育つ場所になるように、イベントの実施や日常的に活用される仕組みづくり、環境学習の場としての空間づくりの2つの観点からマネジメントを考えていく必要があります。

< マネジメントの方針 >

空間づくり 仕組みづくり

地域と共に育つ場所

### 遠賀川魚道公園から流域全体へ

遠賀川魚道公園が完成し、多様な魚種が遡上できるようになったと同時に、多様な環境が生まれたことで、様々な生き物の生息場所や人々にとっての憩いの場所となりました。

本来、河川は、憩いや様々な活動の場など人々の生活にとっても重要な空間であり、生き物にとっても重要な生息空間です。

こうした環境づくりを遠賀川流域全体に拡げていき、豊かな河川環境をつくっていく必要があります。



〈遠賀川魚道公園の場所〉



○公共交通機関でのアクセス  
・あしやタウンバス 芦屋 / 遠賀川駅線 「祇園崎駅」から徒歩1分

〈遠賀川魚道公園についてのお問い合わせ〉

国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所  
Tel : 0949-22-1830 FAX : 0949-22-2859  
Mail : onga@qsr.mlit.go.jp

〈多自然魚道のご利用についてのお問い合わせ〉

国土交通省九州地方整備局 遠賀川河川事務所 河口堰管理支所  
Tel : 093-201-1675

 **GOOD DESIGN AWARD 2013**

遠賀川魚道公園は 2013 年度グッドデザイン賞を受賞しました

〈プロデューサー〉

国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所河川環境課、伊東啓太郎（九州工業大学准教授）、辰本卓（遠賀川河川事務所技術副所長）、小野勇一（九州大学名誉教授）

〈デザインディレクター〉

伊東啓太郎（九州工業大学准教授）、深浦貴之（遠賀川河川事務所河口堰管理支所）  
滝口正行（松浦・白石JV）、白石慎二（松浦・白石JV）、松本伸彦（松正・福山JV）、吉田靖博（株式会社三島建設）

〈デザイナー〉

伊東啓太郎（九州工業大学准教授）、九州工業大学環境デザイン研究室、八千代エンジニアリング株式会社、株式会社建設技術研究所、株式会社建設環境研究所

※受賞者の所属については、受賞当時（2013年10月時点）のものを記載しています